

風疹無免疫地域における女子児童生徒に対する 生ワクチンによる免疫賦与

須藤 恒久*・森田 盛大**

I はじめに

風疹ワクチンの意義は、他のワクチンと異なり、疾患そのものの予防ではなく、将来妊娠時に風疹に感染罹患することによる奇形児の出生を防ぐことにある。従って、接種を必要とするものは、風疹に未感染の成人女子のみである。本県の如く、成人の風疹免疫保有率の高い地域では、恐らく、真に必要となる人口は僅かであろう。しかし実際上は、如何にして簡単に且つ正確に風疹免疫の保有を確認するかが、風疹ワクチンに於ける一つの問題点である。

我々は、昭和42年の調査で、15才以下の学童は全く風疹免疫を保有して居らず、即ち過去15年間は恐らく風疹ウイルスの侵入しなかったと思われる秋田県東成瀬村大柳地区に於て、昭和47年の調査でも、やはり風疹の侵入を20年間にわたって認めなかったことを確認したが（須藤たち、19681）、このような地区の女子は将来を考慮して、風疹ワクチンを接種すべきであると考え、同地区の小中学生を対象として、風疹生ワクチンの接種を行なったので報告する。

II 調査対象と調査方法

昭和47年7月、秋田県東成瀬村大柳小中学校生徒の在籍91名中89名について風疹免疫の保有状況を調査し、免疫非保有の小学4年生以上の女生徒³⁹名に対して、熊本化血研製（Lot№6）の風疹ワクチンを接種した。生ワクチンは、バイエルに滅菌蒸留水0.6mlを加えて凍結乾燥を復元し、その0.5mlを上膊皮下に接種した。

ワクチン接種から6週間目に採血し、抗体の上昇を確認した。風疹抗体の有無は、先に我々が発表した風疹ウイルス赤血球凝集抑制（HAI）抗体の検索法（森田たち19682）によった。

III 成績とまとめ

1) ワクチン接種者は、全員風抗疹体の産生を認め、その抗体価の分布は表の如く8倍から128倍迄の間にあった。

表1 風疹生ワクチン接種者のHAI抗体価分布
(接種後41日目)

HAI 抗体価	8	16	32	64	128	256	計
人数	3	5	15	8	4	0	35

2) 接種者中に1名のみ、ワクチン接種後12日目から2日間の発熱と、麻疹様の発疹をみたものが1名あった。

3) ワクチン不接種で、且つ、接種群の女子と学校内で共同生活することによって、2次感染が起るかと思われる男子生徒では、1名も風疹抗体の産生をみず、風疹ワクチンの非伝播性を確め得た。

文 献

- 1) 須藤恒久、森田盛大、葛谷登美子、日沼頼夫、石田名香雄：風疹のHAI抗体、医学のあゆみ、64、225—230、1968
- 2) 森田盛大、須藤恒久、葛谷登美子、日沼頼夫、石田名香雄：風疹赤血球凝集抑制試験に関する術式について、ウイルス、18、1—22、1968.

*秋田大学医学部微生物学教室

**秋田県衛生科学研究所ウイルス科